

0020307000

0020307-000

特246-603

数理経済学解説

成実清松・〔著〕

共立社

1

昭和13

ADB

新輯教育數學講座

數理經濟學解說(1)

成實清松



合資會社 共立社

特246
603

數理經濟學解說

1

名古屋高等商業學校教授・理學博士

成實清松

緒 言

数理經濟學ヲ系統的ニ完全ニ叙述スルコトハ容易ナ業デナイコトハ誰モ認メル所デアル。吾々ハココデ斯ル困難ナル業ヲ企テルモノデハナイ。數學ガ今日經濟學ニ如何ニ應用セラレツ、アルカヲ示スニ過ギナイ。コレヲ奇縁トシテ讀者ガ經濟學基礎理論ノ數學化ニ興味ヲ起サレルコトヲ筆者ハ願ツテ居ル譯デアル。從ツテ既ニ先人ノ研究セラレタ數學ヲ例示的ニ紹介シ解説スル豫定デアツテ決シテ新シキ研究ノ發表トハ考ヘテ居ナイカラ此ノ點ハ豫メ斷ツテオキタイ。序ニモ一ツ斷ラナケレバナラヌ事ハ經濟學的言葉ノ意味ヲ經濟學者ガイフ様ニ長々ト説明シテ居テハ面白クナイノデ極ク手短カニ説明シテオクコトニシタ。故ニ或ハ不明ナコトニナル所モ出ルカト思フガコレモ致シ方ナイコトデアル。

目 次

第1章 獨占ノ理論	1
1. 緒言	1
2. 生産費函數	1
3. 需要函數	3
4. 生産ノ獨占	4
5. 固定價格	6
6. 需要ト供給	8
7. n 人ノ生産者	9
第2章 協同及ビ競争ノ理論	12
1. 二生産者	12
2. 協同	12
3. 競争	14
4. n 人ノ生産者ノ場合	15
5. 人數ノ制限	17
第3章 需要供給ノ動態理論	19
1. 新シキ需要及ビ供給函數	19
2. 需要供給ノ別ノ函數	22
3. 積分デ表ハシタ需要法則	23
第4章 課税ノ問題	27
1. 獨占ヘノ課税 (從量税)	27
2. 獨占ヘノ課税 (從量税)	28

3. 協同への課税 30

4. 協同への従価税 32

5. 競争への従量課税 34

6. 競争への従価課税 36

第1章 独占ノ理論

1. 緒言

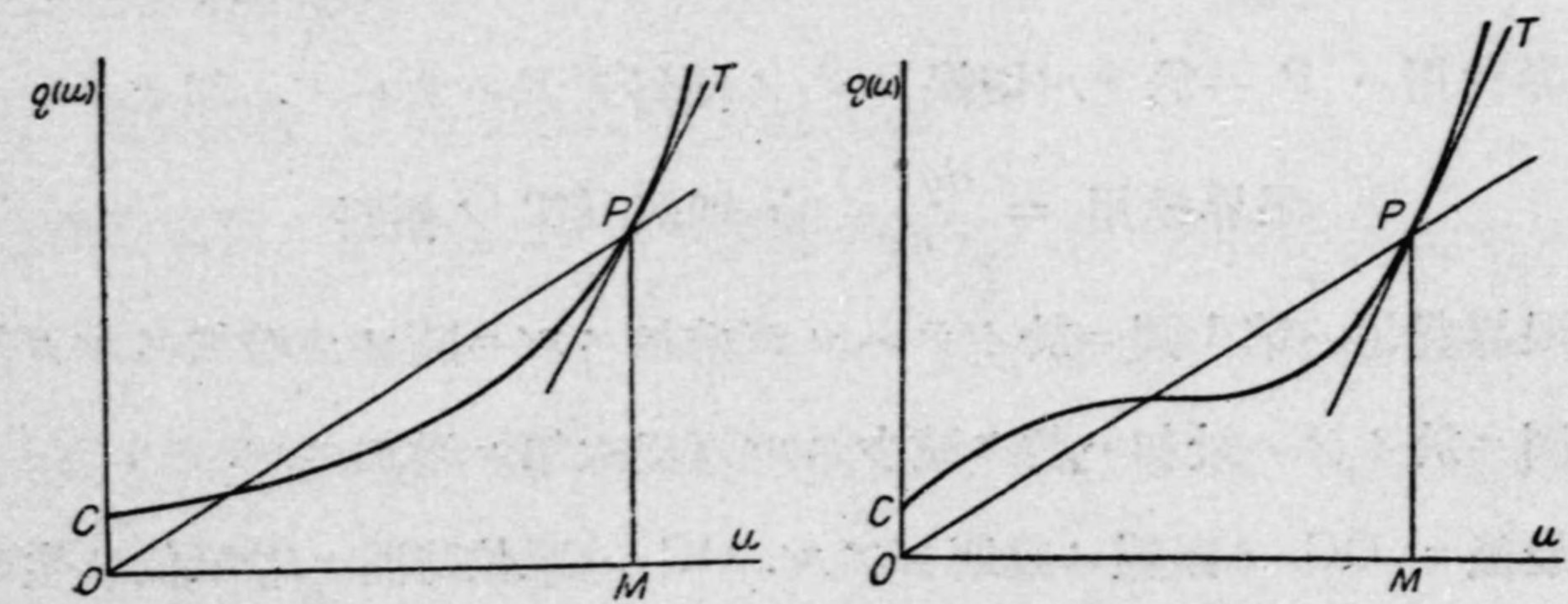
出来ルダケ多クノ例ヲ使ツテ数理經濟學ノ全體ヲ語リタイト考ヘルガ最初ニ最モ簡單ナ独占ノ理論カラ始メル。独占ニモ種々アリ、生産独占、販賣独占等考ヘラレルガココデハ簡單ノタメニ生産シタ者ガソレヲ直チニ市場ニ持チ出シ販賣スルト考ヘル。

コレカラ吾々ハ独占、協同、競争ノ三種ヲ説明スル。

2. 生産費函数 (The Cost Function)

單位時間ニ或ル品物ヲ生産スル費用ハソノ生産セラレル分量ノミニ依ツテ決定セラレルト假定スル。而シテコノ品物ヲ單位時間ニ u 單位生産シテ市場ニ送り出スマデニ要スル費用ヲ $q(u)$ デ表ハス。

生産費函数ノ特質ハ過度ノ生産量ハ不可能デアル。換言スレバ生産量ガ或ル特別ナ分量ヲ越ヘルトキハ費用ハ急激ナル増加ヲスル。正常ノ状態ニ於イテハ即チ u ガ適當ナ範圍内ニアルトキハ $q(u)$ ハ



第1圖

第2圖

最初ノウチ緩慢ナル増加函数デアアルガ増加スルト共ニ次第ニソノ増加ノ割合ガ増シ遂ニハ非常ニ急激ナル増加函数トナル。生産費函数ノ模範的形狀ハ前頁ノ圖ニ表ハス如キモノデアアル。

曲線上ノ任意ノ一點 P ノ座標ハ $u, q(u)$ デアル。直線 OP ノ傾斜ハ OM, MP ノ比即チ $\frac{MP}{OM}$ デアルカラマタ $\frac{q(u)}{u}$ トモナル。是ヲ u 單位生産スルトキノ平均費用トイフ。即チ

$$\text{平均費用} = \frac{q(u)}{u} = \text{直線 OP ノ傾斜}$$

第1圖, 第2圖何レノ圖ニ於イテモ u ガ増加スレバ平均費用ハ最初暫ク減少シ次イデ増加スル。

更ニ數學的ニモ興味アル經濟上ノ費用ガアル。ソレハ限界費用デアアル。或ル品物ヲ u 單位生産シテ居ル時ニ更ニ Δu 單位ダケ生産量ヲ増加スル。ソレニ随ツテ生産費用モ亦幾何カ増加スルカラソノ増加費用ヲ $\Delta q(u)$ デ表ハス。コノ増加生産量ニ對スル平均費用ハ明ラカニ $\frac{\Delta q(u)}{\Delta u}$ デアル。

若シ Δu ヲ無限小ニスルコトガデキルナラバコノ増加生産ニ對スル平均費ハ $\frac{dq(u)}{du}$ ニナルデセウ, $\frac{dq(u)}{du}$ ヲ以テ限界費用トイフ。限界費用ハ P ニ於ケル切線 PT ノ傾斜デ表ハサレル。即チ

$$\text{限界費用} = \frac{dq(u)}{du} = \text{切線 PT ノ傾斜}$$

限界費用ハ第1圖ニ於イテハ u ガ増加スルニ随ツテ増加スルガ第2圖ニ於イテハ最初ハ暫ク減少スルガ後次第ニ増加スル。

最後ニ OC ノ距離ノ説明デアアル。OC ハ單位時間ニ零單位ノ生産ヲ行フトキニ要スル費用デアアル。生産セラレル品物ノ性質ニ依ツテ

ハ $OC=0$ デアルガ常ニ零トハ限ラナイ。通常是ヲ固定費用トイフ。

上圖ニ於イテ若シ第1圖ノ如キ形ヲナスモノハ生産費函数ガ

$$q(u) = Au^2 + Bu + C$$

デ表ハサレルデアラウ。マタ第2圖ノ如ク限界費用ガ動搖スル形ハ

$$q(u) = Ru^3 + Au^2 + Bu + C$$

ノ如ク少クトモ三次式ナルコトヲ要スル。

生産費函数ガ二次式ナルトキ限界費用ハ一次式デアツテ

$$\frac{dq}{du} = 2Au + B,$$

マタ平均費用ハ

$$\frac{q(u)}{u} = Au + B + \frac{C}{u}$$

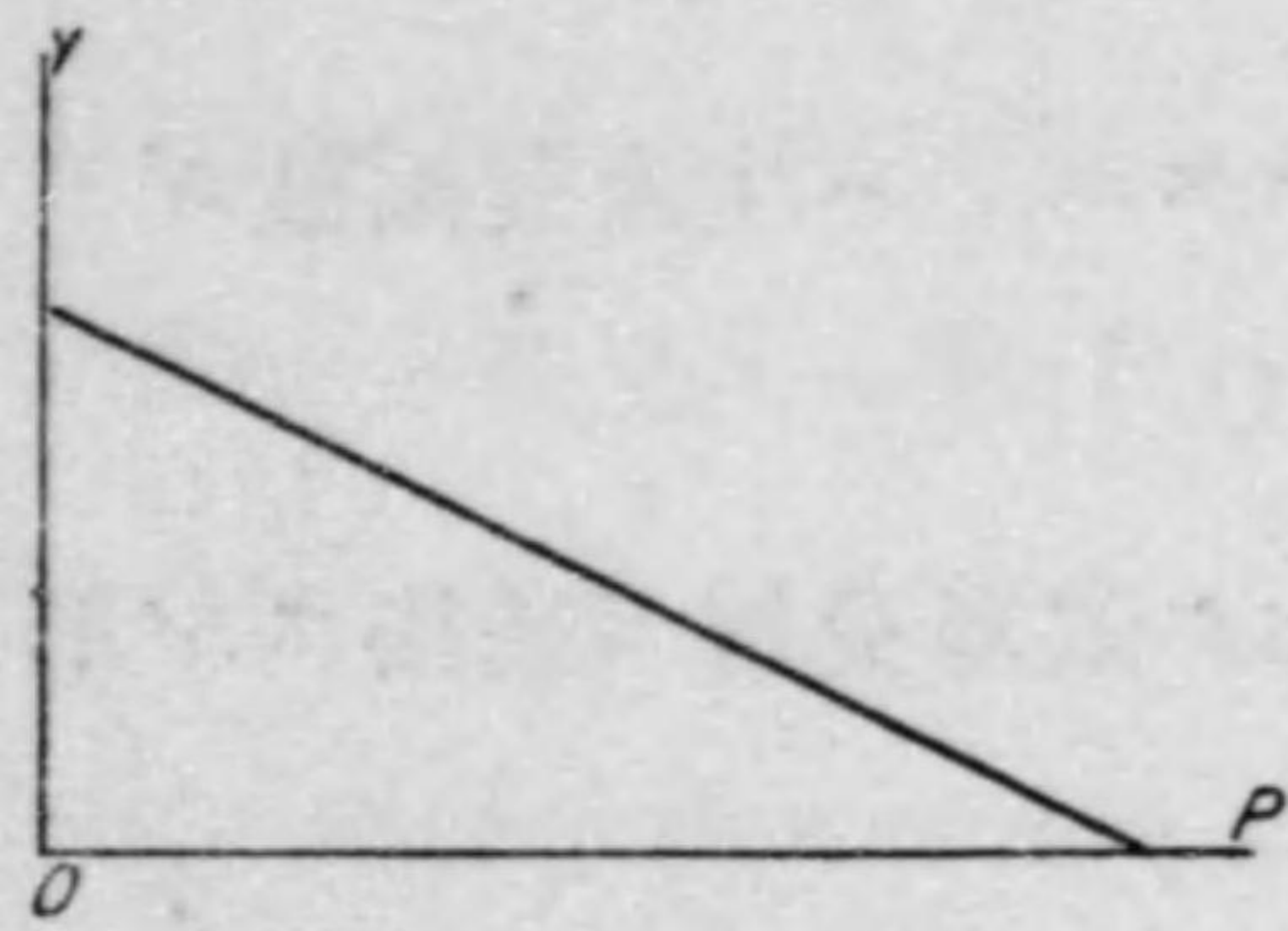
トナリ固定費用ハ C デアル。故ニ C ハ正ノ數デアアル。B ハ $u=0$ ナルトキノ限界費用デアアルカラ B モ亦正ノ數デアアル。更ニ限界費用ハ u ガ非常ニ大キナトキ正ノ數デアアルカラ A モ亦正ノ數デアアル。即チ第1圖ノ如ク u ノ正ナル値ニ對シテ遞増ニシテ且上方ニ凹 (Concave upward) デアル。

3. 需要函数 (The Demand Function)

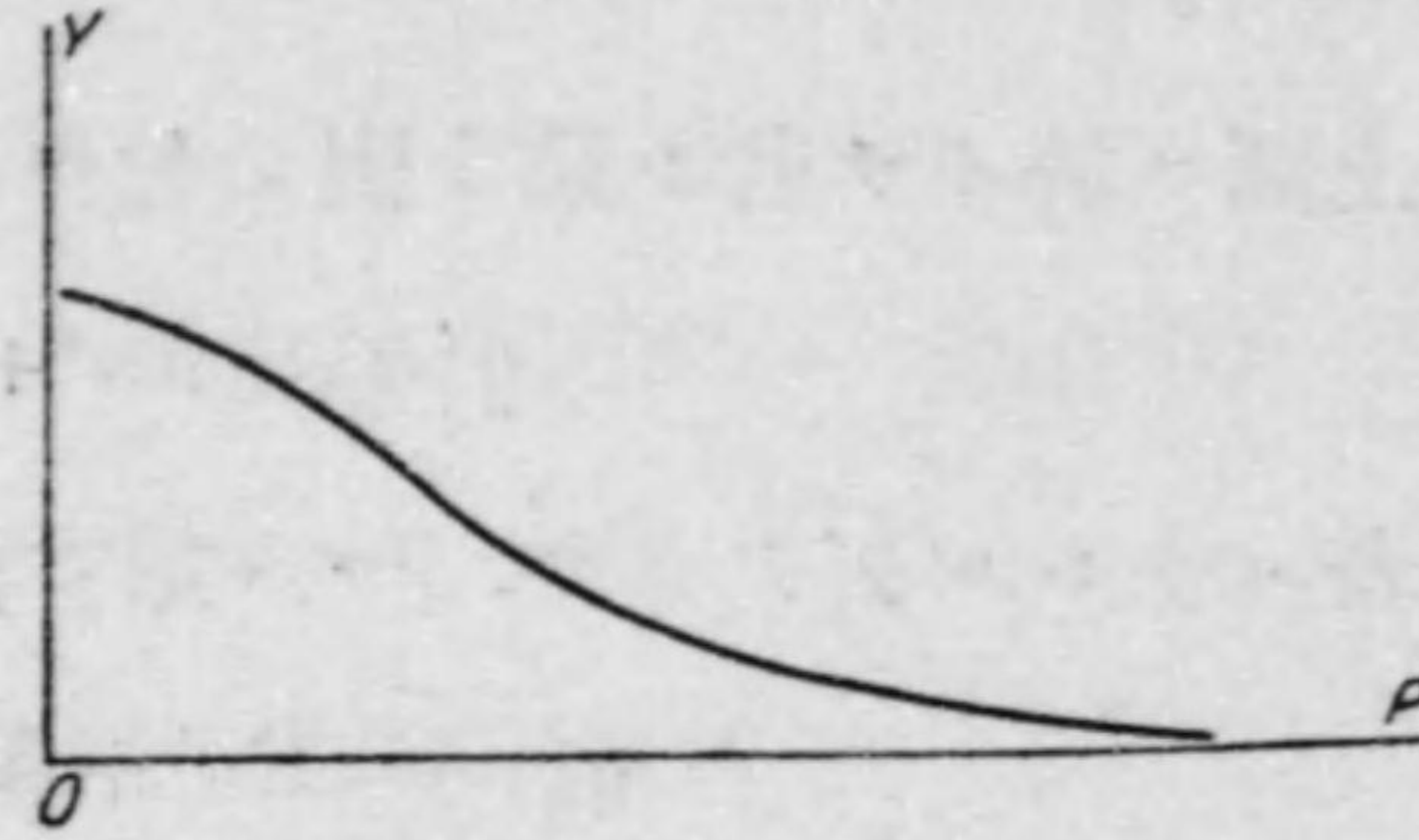
生産費函数ノトキニナシタト同様ニ假定ノ下ニ需要ヲ定義スル。即チ單位時間内ニ市場ニ於イテ買ハレル或ル品物ノ分量 y ハ唯ニソノ品物ノ價格 p ノミニ依ツテ決定セラレルモノト假定スル。吾々ノ假定ハ y ガ p ノミノ函数ナルコトヲ示スモノデアアル。

y ノ特質ハ p ガ増加スレバ y ハ次第ニ減少スルトイフコトデア

ル。之ヲ微分學ノ言葉ヲ借リテ言フナラバ $\frac{dy}{dp}$ ハ p ノ如何ナル値



第3圖



第4圖

ノトキニモ常ニ負ノ數デアル。故ニ最モ簡單ナ場合ハ y ハ p ノ一次式デアルトキ即チ

$$y = -ap + b \quad \text{但シ } a, b > 0$$

デアル。第3圖ニ示シタノガ夫デアル。一般ニハ第4圖ノ如ク唯 y ガ p ノ増加ニ反シテ減少スルコトヲ示スダケデアル。

4. 生産ノ獨占 (Monopoly of Production)

或ル品物が唯一人ノ生産者ノ爲ニ依リ生産セラレ且ツ其生産物ハ望ミ通りノ價格ヲ賣ルコトガ出來ル場合ヲ考ヘル。生産者ハ賣レルダケ生産スルデアラウカラ $u = y$ デアルコト勿論デアル。次ニ生産者ハ彼ノ收益ガ最大トナル様ニソノ生産物ノ價格ヲ決定スル、別言スレバ彼ノ收益ガ最大トナル様ニソノ生産物ノ生産量ヲ決定スルト假定スル。

單價 p デ y ダケ賣ルトソノ賣上金ハ py 、マタ u ダケ生産スルニ要スル費用ハ $q(u)$ ナル故ニ $y = u$ トスルト純益 π ハ次ノ式デアラレル。

$$\pi = pu - q(u)$$

シカルニ

$$q(u) = Au^2 + Bu + C, \quad y = -ap + b, \quad y = u$$

カラ

$$\pi = u \left(\frac{-u + b}{a} \right) - Au^2 - Bu - C$$

$$= -\left(\frac{1}{a} + A \right) u^2 + \left(\frac{b}{a} - B \right) u - C$$

トナル。之ヲ最大ナラシメル u ノ値ハ $\frac{d\pi}{du} = 0$ デアルカラ

$$-2\left(\frac{1}{a} + A \right) u + \left(\frac{b}{a} - B \right) = 0,$$

或ハ

$$u = \frac{b - Ba}{2(1 + Aa)}$$

トシテ生産量 u ハ決定セラレ次イデ販賣價格 p ハ

$$\frac{b - Ba}{2(1 + Aa)} = -ap + b$$

ヲ満足セシムベキデアル。即チ

$$p = \frac{Ba + 2Aab + b}{2a(1 + Aa)}$$

今得タ解ヲ少シク吟味シテ見ヨウ。先ヅ u ガ正ノ値ヲ與ヘナケレバナラヌ。即チ次ノ不等式ガ成立シナケレバナラヌ。

$$b - Ba > 0 \quad \text{或ハ} \quad \frac{b}{a} > B$$

此ノ不等式ノ左邊ノ $\frac{b}{a}$ ハ需要量 y ガ零トナツタトキノ價值デアル。即チ若シ價格ガ $\frac{b}{a}$ トナレバ高クスキテ誰モソノ物ヲ買フ人ガナクナルトイフ價格ヲ表ハス。マタ右邊ノ B ハ生産量 u ガ零ナルトキノ限界費用デアル。即チ最初ノ限界費用デアル。依ツテ u ガ

正ナルタメノ不等式ハ最初ノ限界費用ニ等シイ價格ナラバマダ需要量ガアルコトヲ意味スル。

更ニ π ノ右邊 u^2 ノ係數ハ $-\left(\frac{1}{a}+A\right)$ デアルカラ確ニ正ノ數、即チ吾々ノ求メタ u ノ値ニ應ズル π ハ最大デアルガ π ノ全部ガ負數ナルトキハ純益ハ純損トナリ、隨ツテ純損ガ最小トナル場合ヲ求メタコトニナル。シカシ π ガ眞實ノ純益金ナルタメニハ次ノ不等式ガ成立シナケレバナラス。

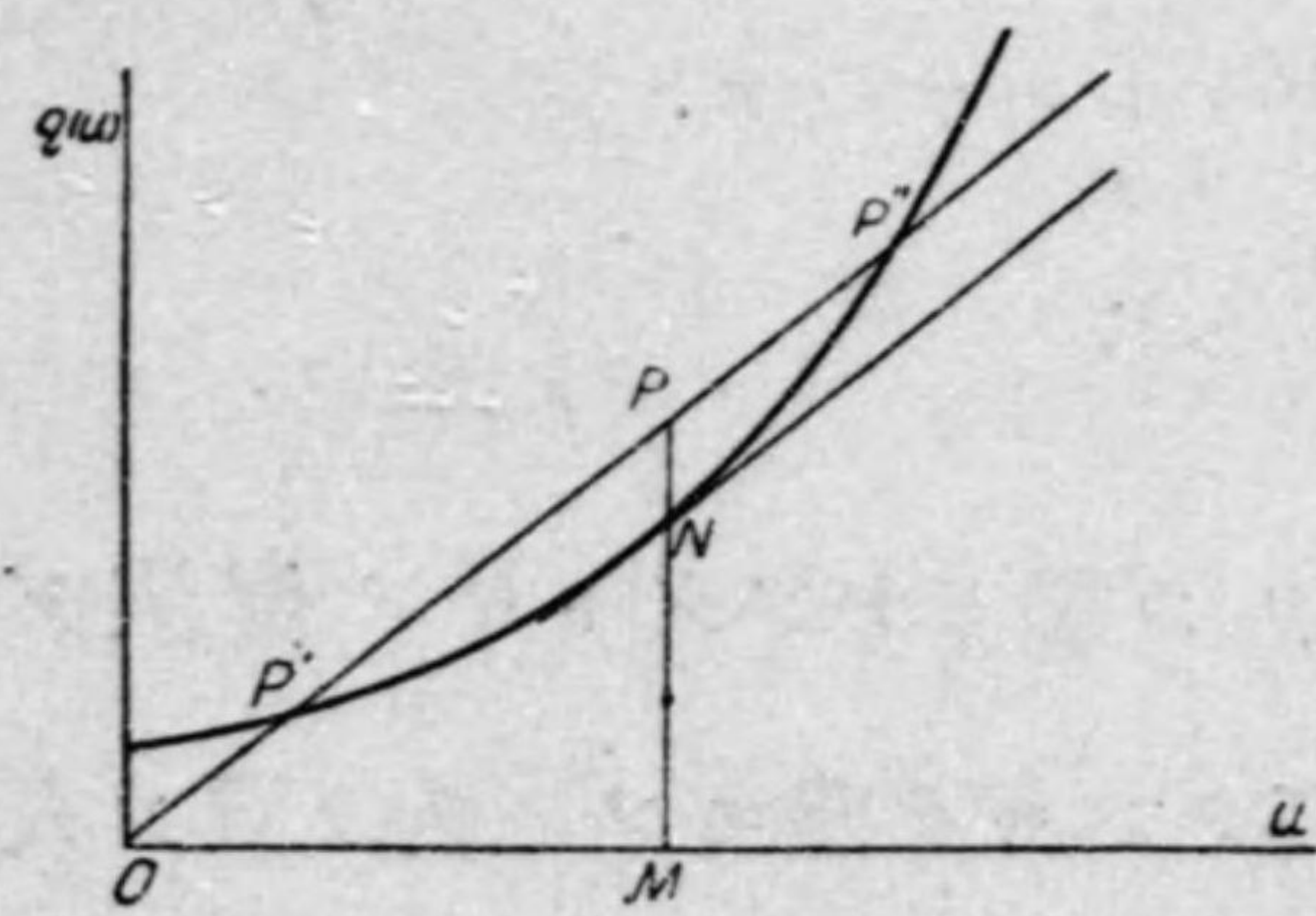
$$\frac{1}{2}\left(\frac{b}{a}-B\right)u-C=\frac{(b-aB)^2}{4a(1+Aa)}-C>0$$

$$\therefore C<\frac{(b-aB)^2}{4a(1+Aa)}$$

即チ固定費 C ガ右邊ニ表ハサレタ様ナ數值ヨリモ小ナルコトヲ要スル。

5. 固定價格 (Price Fixing)

今マデ得タ所ト根本的ニ異ナツタ見方ヲシテ價格ガ生産量 u ノ多少ニ異ラズ恒ニ一定ナル値ヲトルモノト考ヘ此ノ時生産者ハ如何ナル態度ヲトルカラ考ヘテ見ル。今コレヲ次ノ圖ヲ使ツテ説明スレバ



第 5 圖

$q(u)$ ノ曲線即チ生産費曲線、及ビ原點 O ヲ通過シテソノ傾斜ガ固定價格 p ニ等シキ直線即チ價格直線ヲ描ク。價格直線上ノ任意ノ一點 P ノ横座標ヲ OM 、縦座標ヲ MP トスレバ生産品ノ u 單位

($OM=u$) ヲ賣却スルトキノ賣却代金ハ $pu=MP$ デ表ハサレル。

生産費曲線ト價格直線トノ交點 P' 又ハ P'' ニ於イテハ費用ト賣却代金トガ等シクナルカラ利益金ハ少シモナイ。 P ヲ $P'P''$ ノ間ニ採リ、 PM ガ生産費曲線ト交ハル點ヲ N トスレバ $NP=pu-q(u)$ デアルカラ NP ハ純益金ヲ表ハス。

p ガ一定ナルトキ純益金 $pu-q(u)$ ガ最大ナルタメノ u ハ

$$p-\frac{dq}{du}=0$$

ヲ満足セシメル u デアル。換言スレバ生産費曲線ノ切線ガ價格直線ト平行ナル位置デアル。

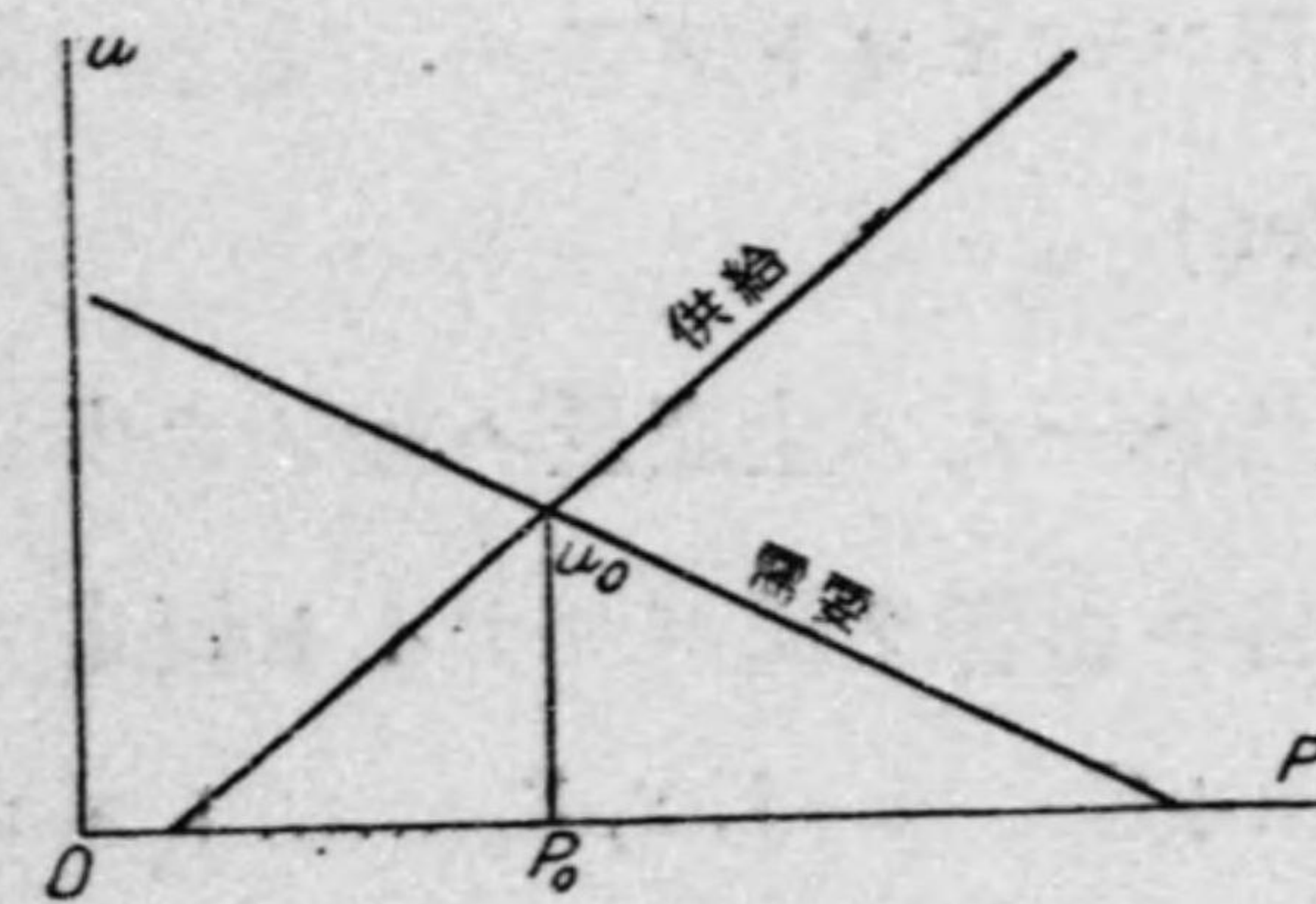
若シ $q(u)$ ガ二次式 Au^2+Bu+C ナラバ $\frac{dq}{du}=2Au+B$ デアルカラ $\pi=pu-q(u)$ ハ

$$p-2Au-B=0$$

ナル如キ u ノ値ノトキ純益金ハ最大トナル。即チ生産者ハ生産量 u ヲ

$$u=\frac{p-B}{2A}$$

ニ依ツテ與ヘラレル程生産スルデアラウ。コノ量 u ヲ價格 p デ生産者ガ供給スル分量即チ供給量トイフコトガデキル。一般ニ供給量



第 6 圖

ハ價格 p ノ函數デアル。現在與ヘタモノハソノ特別簡單ナ場合デアツテ價格軸ト B ニ於テ交ハリ、傾斜係數ガ $\frac{1}{2A}$ デアル様ナ直線デアル。

需要量 y ガ $-ap+b$ デ表ハ

サレ、供給量 u が $\frac{p-B}{2A}$ デ表ハサレルトキハ $y=u$ =依ツテソノ市場ニ於ケル實現スル價格 p 及ビ販賣セラレル分量 u ハ前頁ノ第6圖デ與ヘラレル。先ヅ p ハ

$$-ap + b = \frac{p-B}{2A}$$

即チ

$$p_0 = \frac{B+2Ab}{1+2Aa}$$

マタコノ p ノ値ニ應スル u 即チ u_0 ハ

$$u_0 = \frac{b-Ba}{1+2Aa}$$

茲ニ得タ u_0 ハ第4節デ得タ値ヨリモ大デアル。即チ $\frac{b-Ba}{1+2Aa}$ ハ $\frac{b-Ba}{2(1+Aa)}$ ヨリモ大デアル。随ツテ現在得タ p_0 ハ第4節デ得タ p ヨリモ小デアル。何トナレバ

$$\frac{Ba+2Aab+b}{2a(1+Aa)} - \frac{B+2Ab}{1+2Aa} = \frac{b-Ba}{2a(1+2Aa)(1+Aa)} = \frac{u_0}{2a(1+Aa)} > 0.$$

是ヲ要スルニ生産獨占者ガ最大利益ヲ獲得センガタメノ價格ヨリモ低廉ニ價格ヲ固定シテモ市場デ捌ケル品物ノ分量ガ減少スル理由ニハナラナイコト現ニ茲ニ示シタルガ如ク生産者ガ市場ニ供給スル分量ガ増加スルモノデアルコトハ注目スベキコトデアル。

6. 需要ト供給 (Demand and Offer)

或ル品物ノ多數ノ生産者ガ存在シ且各一人ノ生産量ハ極メテ少量ナルタメ市場ニ於ケルソノ商品ノ價格ニ影響ヲ及ボサナイト假定スル。更ニソノ生産費函數ヲ $A_s u^2 + B_s u + C_s$ $s=1, 2, 3, \dots$ トスレバソノ供給量ハ

$$u_s = \frac{p}{2A_s} - \frac{B_s}{2A_s} \quad s=1, 2, 3, \dots$$

トナル、随ツテ市場ヘノ全供給量 u ハ

$$u = \sum u_s = p \sum \frac{1}{2A_s} - \sum \frac{B_s}{2A_s} = \alpha p - \beta$$

デ表ハサレル。市場ニ於イテ均衡ガ得タレルタメニハ生産者ガ市場ヘ供給スル量ト消費者ガ市場デ需要スル量トガ等シクナケレバナラス。換言スレバ總供給量ハ總需要量ニ等シク、随ツテソノ價格及ビ生産量ハ第6圖ニヨツテ決定セラレル。

若シ總供給量ガ需要量ヨリモ少イトキハ即チ p ガ第6圖ノ p_0 ヨリ小サイトキニハ價格ハ騰貴シテ均衡スルデアラウ。反對ニ總供給量ガ需要量ヨリモ多イトキハ即チ p_0 ヨリモ p ガ大ナルトキハ價格ハ下落シテ均衡スルデアラウ。換言スレバ需要供給圖ノ示ス均衡價格ハ市場ガ均衡ヲ保ツテ居ナイトキニ價格ガ變動スル方向ヲ示スモノデアル。

7. n 人ノ生産者

前節デ假定シタル如ク n 人ノ生産者ガ各人ノ生産量ヲ極メテ少量ニシテ市場ニ於ケルソノ商品ノ價格ニ影響ヲ及ボシ得ナイ程度ナルトキハ市場ヘノ全供給量 u ハ

$$u = \alpha p - \beta, \text{ 但シ } \alpha = \frac{1}{2} \sum \frac{1}{A_s}, \beta = \frac{1}{2} \sum \frac{B_s}{A_s}$$

デアル。簡單ニ $A_s = A, B_s = B$ ナル場合ハ

$$\alpha = \frac{n}{2A}, \beta = \frac{nB}{2A}$$

トナル。故ニ供給量 u ハ

$$u = \frac{n(p-B)}{2A}$$

デ表サレ之ガ需要量 y 即チ $-ap+b$ = 等シイトオケバ市場デ現實ニ取引キサレル p 及ビ u ヲ得. 即チ

$$\frac{n(p-B)}{2A} = -ap+b$$

ノ分母ヲ拂ツテ

$$np-nB = -2Aap+2Ab$$

移項シテ p ヲ求ムレバ

$$p = \frac{2Ab+nB}{n+2Aa}$$

故ニ

$$u=y = -ap+b = b - \frac{2Aab+nBa}{n+2Aa} = \frac{nb-nBa}{n+2Aa}$$

マタ

$$u_s = \frac{p-B_s}{2A_s} = \frac{p-B}{2A} = \frac{b-Ba}{n+2Aa}$$

是等ノ價ハ次節デ説明スル n 人ガ自由競争ヲスル場合ニ於ケル價格及ビ生産量ト n 人ガ協同スル場合ニ於ケル價格及ビ生産量トハ全然異ナル價ナルコトハ注意スベキコトデアル.

而シテ價格及ビ各人ノ生産量ガ夫々

$$\frac{2Ab+nB}{n+2Aa} \quad \text{及ビ} \quad \frac{b-Ba}{n+2Aa}$$

ナルトキノ各生産者ノ純利益金 π_s ハ

$$\begin{aligned} \pi_s &= pu_s - Au_s^2 - Bu_s - C \\ &= \frac{(2Ab+nB)(b-Ba)}{(n+2Aa)^2} - \frac{A(b-Ba)^2}{(n+2Aa)^2} - \frac{B(b-Ba)}{n+2Aa} - C \\ &= \frac{A(b-Ba)^2}{(n+2Aa)^2} - C \end{aligned}$$

隨ツテ $\pi_s > 0$ デナケレバ各生産者ノ利益金ガナクナル, 依ツテ

$$A(b-Ba)^2 - C(n+2Aa)^2 > 0$$

又ハ人數 n ハ

$$\sqrt{\frac{A}{C}}(b-Ba) - 2Aa > n$$

ナル條件ヲ満足シナケレバ利益金ガナクナル.

第2章 協同及ビ競争ノ理論

1. 二生産者

或ル一種ノ品物ヲ生産スル者ガ唯二人居ツテ各人夫々單位時間＝ u_1, u_2 單位ヲ生産スルト考ヘル。更ニ計算ヲ容易ナラシメルタメニ同一ノ生産費函數ニ支配セラレルモノトス。即チ

$$q(u_s) = Au_s^2 + Bu_s + C, \quad s=1, 2, \quad A, B, C > 0$$

トスル。前章デ假定シタノト同様ニ市場デ需要セラレル分量 y ト此等兩人ノ生産スル分量ノ和トハ相等シイトスル。即チ $u_1 + u_2 = y$ 更ニ需要函數モ前章ノ通り

$$y = -ap + b, \quad a, b > 0$$

トスル。各生産者ガ單位時間ニ得ル純益ヲ $\pi_s, s=1, 2$ トスレバ

$$\pi_s = pu_s - q(u_s) = pu_s - Au_s^2 - Bu_s - C \quad s=1, 2$$

トナル。茲ニ $p, u_s, s=1, 2$ ヲ決定スルタメニハ更ニ別種ノ假定ヲ必要トスル。

2. 協同 (Cooperation)

協同トイフ言葉ハ總テノ生産者ガ一致シテソノ總體ノ利益ヲ最大ナラシメント協力スル組織ヲ意味スル。即チ各生産者ハ單位時間内ニ生産スル分量 u_s ヲシテ單位時間ニ獲得スル利益ノ總計ヲ最大ナラシメル様ニ決定スルノガ協同デアアル。

利益ノ總計 π ハ二人ノ生産者ノ場合ニハ

$$\begin{aligned} \pi &= \pi_1 + \pi_2 = p(u_1 + u_2) - q(u_1) - q(u_2) \\ &= p(u_1 + u_2) - A(u_1^2 + u_2^2) - B(u_1 + u_2) - 2C \end{aligned}$$

デアアルカラ $u_1 + u_2 = -ap + b$ ナル條件ノ下デ π ヲシテ最大ナラシメントス。即チ

$$\pi = \frac{(u_1 + u_2)(b - u_1 - u_2)}{a} - A(u_1^2 + u_2^2) - B(u_1 + u_2) - 2C$$

ヲ u_1 及ビ u_2 ニ關スル偏微係數ヲ求メ是等ヲ零ニ等シイトオク。

$$\frac{\partial \pi}{\partial u_1} = \frac{b}{a} - \frac{2(u_1 + u_2)}{a} - 2Au_1 - B = 0$$

$$\frac{\partial \pi}{\partial u_2} = \frac{b}{a} - \frac{2(u_1 + u_2)}{a} - 2Au_2 - B = 0$$

是等二式ヲ邊々引キ算ヲ行ツテ $A > 0$ ヲ利用スレバ明ラカニ $u_1 = u_2$ ナルコトヲ知ル。故ニ一般ニ

$$\frac{b}{a} - \frac{4u_s}{a} - 2Au_s - B = 0 \quad s=1, 2$$

カラ直チニ

$$u_1 = u_2 = \frac{b - Ba}{2(2 + Aa)}$$

ヲ得。是等ノ値ガ π ノ最大値ヲ與ヘルコトハ π ノ式カラ容易ニ分ルコトデアアルガ嚴密ニ證明スルナラバ

$$\frac{\partial^2 \pi}{\partial u_1^2} = \frac{\partial^2 \pi}{\partial u_2^2} = -\frac{2}{a} - 2A, \quad \frac{\partial^2 \pi}{\partial u_1 \partial u_2} = -\frac{2}{a}$$

ヲ利用シテ

$$\left(\frac{\partial^2 \pi}{\partial u_1 \partial u_2} \right)^2 - \frac{\partial^2 \pi}{\partial u_1^2} \frac{\partial^2 \pi}{\partial u_2^2} = -4A \left(\frac{1}{a} + A \right) < 0$$

カラ結論シ得ルコトハ諸子ノ既ニ知ル所デアラウ。

更ニコノ極値ニ對應スル u 及ビ p ノ値ヲ求メルナラバ

$$u = u_1 + u_2 = 2u_s = \frac{b - Ba}{2 + Aa}$$

$$p = \frac{b}{a} - \frac{2u_s}{a} = \frac{b}{a} - \frac{b - Ba}{a(2 + Aa)} = \frac{b + Aab + Ba}{a(2 + Aa)}$$

3. 競争 (Competition)

前節デ考ヘタ様ナ状態即チ數人ノ生産者ガアツテ市場デ捌ケル品物ノ分量ト各生産者ノ生産スル分量ノ和トガ等シイ場合ヲ考ヘヨ。而シテ此度ハ各生産者ハ各人別々ニ彼自身ノ利益ノミヲ念願シテ他人ノ損失ヲ考ヘナイ組織ヲ考ヘ之ヲ競争トイフ。即チ競争トハ各競争者ハ各自ノ單位時間内ノ生産量 u_s ヲシテ互ニ獨立ニ、シカモ彼自身ノ單位時間内ノ利益 π_s ヲシテ最大値ヲトル様ニ決定スルモノトスル。今二人ノ生産者ノ競争ヲ考ヘルト

$$\pi_s = pu_s - q(u_s) = pu_s - Au_s^2 - Bu_s - C, \quad s=1, 2$$

但シ

$$y = -ap + b, \quad u_1 + u_2 = u = y.$$

故ニ

$$\pi_s = u_s \left(\frac{b}{a} - \frac{u_1 + u_2}{a} \right) - Au_s^2 - Bu_s - C \quad s=1, 2$$

各自ガ自身ノ利益ヲ最大ナラシメンニハ

$$\frac{\partial \pi_1}{\partial u_1} = \frac{b}{a} - \frac{2u_1 + u_2}{a} - 2Au_1 - B = 0$$

$$\frac{\partial \pi_2}{\partial u_2} = \frac{b}{a} - \frac{u_1 + 2u_2}{a} - 2Au_2 - B = 0$$

引き算ヲ行ヒ $\left(\frac{1}{a} + 2A\right) > 0$ ナルコトニ注意スレバ明ラカニ $u_1 = u_2$

ヲ得。依ツテ

$$\frac{b}{a} - \frac{3u_s}{a} - 2Au_s - B = 0$$

カラ

$$u_1 = u_2 = \frac{b - Ba}{3 + 2Aa}$$

$$\frac{\partial^2 \pi_1}{\partial u_1^2} = \frac{\partial^2 \pi_2}{\partial u_2^2} = -2 \left(\frac{1}{a} + A \right) < 0$$

ナルガ故ニ π_s ハ何レモ最大ナルコトヲ知ル。

更ニ是等ノ値ニ對應スル u 及ビ p ハ

$$u = u_1 + u_2 = \frac{2(b - Ba)}{3 + 2Aa}$$

$$p = \frac{b}{a} - \frac{u}{a} = \frac{b}{a} - \frac{2(b - Ba)}{a(3 + 2Aa)} = \frac{b + 2Aab + 2Ba}{a(3 + 2Aa)}$$

トナル。

4. n 人ノ生産者ノ場合

生産者ガ一般ニ n 人アツテシカラ各人ノ生産費函数ハ何レモ

$$q(u_s) = Au_s^2 + Bu_s + C, \quad s=1, 2, 3, \dots, n$$

トスル。 n 人ノ生産者ガ協同スルトキ市場デ需要スル分量ダケ n 人デ生産スルモノトスル。コノトキノ價格 p 及ビ各人ノ生産量 (單位時間内ノ) u_s ヲ夫々 $p_n^{(a)}, u_{s,n}^{(a)}$ ト表ハセバ

$$p_n^{(a)} = \frac{nb + 2Aab + nBa}{2a(n + Aa)}, \quad u_{s,n}^{(a)} = \frac{b - Ba}{2(n + Aa)}$$

トナル。マタ n 人ノ生産者ガ競争スルトキノ價格 p 及ビ生産量 u_s ヲ夫々 $p_n^{(c)}, u_{s,n}^{(c)}$ トスレバ

$$p_n^{(c)} = \frac{b + 2Aab + nBa}{a(n + 1 + 2Aa)}, \quad u_{s,n}^{(c)} = \frac{b - Ba}{n + 1 + 2Aa}$$

トナル。

若シ n が次第ニ大キクナルトキハ $u_{s,n}^{(a)}$ モ $u_{s,n}^{(b)}$ モ共ニ n が分母ニノミ存在スル故ニ次第ニ小サクナリ n が非常ニ大キクナレバ遂ニハ

$$u_{s,n}^{(a)} \sim \frac{b-Ba}{2n}, \quad u_{s,n}^{(b)} \sim \frac{b-Ba}{n}$$

トナル故ニ n が非常ニ大ナルトキハ協同スル場合ノ各自生産量ハ競争スル場合ノ各自ノ生産量ノ約半分デアリ。

コノ事ハマタ一般ナル n ニ對シテ常ニ

$$u_{s,n}^{(a)} = u_{s,2n-1}^{(b)}$$

ガ成立スル故ニ分ルコトデモアル。

次ニ n が次第ニ大キクナルトキ $p_n^{(a)}$, $p_n^{(b)}$ モ亦次第ニ小サクナル。何トナレバ

$$p_n^{(a)} = \frac{b+Ba}{2a} + \frac{A(b-Ba)}{2(n+Aa)}$$

$$p_n^{(b)} = B + \frac{(1+2Aa)(b-Ba)}{a(n+1+2Aa)}$$

ト書き直シテ考ヘレバ直チニ分ル。更ニ n ヲ非常ニ大キクシテユケバ遂ニハ

$$p_{\infty}^{(a)} \sim \frac{b+Ba}{2a} = \frac{1}{2} \left(\frac{b}{a} + B \right), \quad p_{\infty}^{(b)} \sim B$$

ナルガ故ニ非常ニ多數ノ生産者ガ競走スルトキハソノ價格ハ限界費用ニ接近シテ來ル。シカシ協同スルトキハソノ價格ハ限界費用ト需要零ナル價格トヲ折半シタモノニ接近スル。

次ニ A ガ非常ニ小サクナルトキハ協同スルトキハ n が非常ニ大キクナル場合ト同様ナ事ニナル即チ $\frac{A}{n}$ ガ一定ナラバ $p_n^{(a)}$, $u_{s,n}^{(a)}$ ノ

値ハ不變デアリニ反シテ競争スルトキハ A ガ小サクナレバ

$$p_n^{(b)} \sim \frac{b+nBa}{a(n+1)}, \quad u_n^{(b)} \sim \frac{b-Ba}{n+1}$$

トナツテ n が非常ニ大キクナル場合トハ異ナツタ結果ニ到達スル。

是等ノ諸點カラ觀察シテモ協同ト競争トハソノ本質ニ於テ全然異ナツタ性質ヲ有スルコトガ分ルデアラウ。

5. 人數ノ制限

無暗ニ多人數ノ生産者ガ自由競争ヲ行フトキハ各生産者ノ利益金ガナクナル心配ガアル。故ニ自由競争ヲ行フトモ尙各生産者ガ利益金ヲ獲得シ得ルニハ人數ニ如何ナル制限ガ存在スルコトヲ要スルカラ少シク吟味シテ見ヨウ。

第 s 番目ノ生産者ガ獲得スル利益金 π_s ハ明ラカニ

$$\pi_s^{(b)} = p_n^{(b)} u_{s,n}^{(b)} - A u_{s,n}^{(b)2} - B u_{s,n}^{(b)} - C$$

シカルニ自由競争ノトキノ p 及ビ u_s ハ夫々

$$p_n^{(b)} = \frac{b+2Aab+nBa}{a(n+1+2Aa)}, \quad u_{s,n}^{(b)} = \frac{b-Ba}{n+1+2Aa}$$

デアルカラ是等ノ値ヲ代入スルト

$$\begin{aligned} \pi_s^{(b)} &= \frac{b+2Aab+nBa}{a(n+1+2Aa)} \cdot \frac{b-Ba}{n+1+2Aa} - \frac{A(b-Ba)^2}{(n+1+2Aa)^2} \\ &\quad - \frac{B(b-Ba)}{n+1+2Aa} - C \\ &= \frac{(b-Ba)^2(1+Aa)}{a(n+1+2Aa)^2} - C \end{aligned}$$

トナル、故ニ $\pi_s^{(b)} > 0$ ナル條件ハ即チ n ガ満足セシムベキ條件ハ

$$\sqrt{\frac{1+Aa}{aC}} \{b-Ba-2\sqrt{aC(1+Aa)}\} > n-1$$

トナル。

次ニ同様ナ考ヘテ協同ノ場合ヲモ吟味シテ見ルト利益金 π_s ハ

$$\pi_s^{(a)} = p_n^{(a)} u_{s,n}^{(a)} - A u_{s,n}^{(a)2} - B u_{s,n}^{(a)} - C$$

デアリ且

$$p_n^{(a)} = \frac{nb + 2Aab + nBa}{2a(n + Aa)}, \quad u_{s,n}^{(a)} = \frac{b - Ba}{2(n + Aa)}$$

デアルカラ是等ヲ代入シテ

$$\begin{aligned} \pi_s^{(a)} &= \frac{nb + 2Aab + nBa}{2a(n + Aa)} \cdot \frac{b - Ba}{2(n + Aa)} - \frac{A(b - Ba)^2}{4(n + Aa)^2} - \frac{B(b - Ba)}{2(n + Aa)} - C \\ &= \frac{(b - Ba)^2}{4a(n + Aa)} - C \end{aligned}$$

ヲ得ル。依ツテ n 人協同シテ生産スルトキニ各人共純利益金ガ得ラ

レルタメニハ

$$\frac{(b - Ba)^2}{4aC} > n + Aa$$

又ハ

$$\frac{(b - Ba)^2}{4aC} - Aa > n$$

ナルコトヲ要ス。

第3章 需要供給ノ動態理論

1. 新シキ需要及ビ供給函数

現實ノ社會ニ於イテハ價格ハ時々刻々變化スルモノデアツテ決シテ一定値ニ固定シテ居ルモノデナイ。隨ツテ既ニ得タ様ナ簡單ナ方程式ヲ以テハ現實ノ問題ヲ解クニハ程遠イ所デアル。隨ツテ價格ハ時ト共ニ變化シ即チ時刻 t ノ適當ナ函数ト考ヘル様ニシナケレバナラス。換言スレバ吾々ハ時々刻々ノ價格ノ函数ヲ定メナケレバナラス。

ソレニハ既ニ用ヒタ常數 A, B, C, a, b 等ヲ總テ t ノ函数 $A(t), B(t), C(t), a(t), b(t)$ トスレバヨイデアラウガ數學的取扱ヒニ困難ヲ感ズル。

茲ニ於イテ價格ハ一般ニハ時 t ノ函数デアツテソノ特別ナ極限ノ場合ガ既ニ得タ様ナ解ニ到達スル様ニ定メル。先ヅ着目スルノガ p ノ t ニ對スル微係數デアル。即チ價格ガ騰貴シツ、アルカ下落シツ、アルカトイフコトガ現在價格ガ高イカ安イカトイフコトト同様需要量ヲ變化セシメル重要ナ要素ヲナスト考ヘル。物價ガ騰貴シツ、アルトキハ商業界ハ活氣ガアリ物價ガ下落シツ、アルトキハ業界ハ沈滞スル。サレバ吾々ハ既ニ研究シタ y ハ函数 $-ap + b$ デアツタガコノ外ニ今一項添加シテ $h \frac{dp}{dt}$ ヲ用ヒテ

$$y = -ap + b + h \frac{dp}{dt}, \quad a, b > 0$$

トスル。勿論 h ハ正負何レノ場合モ考ヘ得ラレルケレド假リニ $h > 0$ トスル。即チ價格ガ騰貴シツ、アルトキハ需要量ガ増加スルト見ルノデアル。

簡單ナ取扱ガデキル様ニト考ヘテ供給函數モ亦同ジ形デ表ハサレルトスル。即チ供給量 u ハ

$$u = \alpha p - \beta + \gamma \frac{dp}{dt} \quad \alpha, \beta > 0$$

トスル。最後ニ $y = u$ 即チ需要量ト供給量トガ相等シクナル様ナ價格 p ヲ決定ショウ。即チ

$$-ap + b + h \frac{dp}{dt} = \alpha p - \beta + \gamma \frac{dp}{dt}$$

トナルカラ移項シテ

$$(h - \gamma) \frac{dp}{dt} = (a + \alpha)p - (b + \beta)$$

$\gamma - h = 0$ ナラバ結局 $\frac{dp}{dt}$ ハ消去セラレ前章デ得タ結果ニナルカラ本章デハ $\gamma - h \neq 0$ ナル場合ノミヲ論ズル。故ニ $h - \gamma$ デ兩邊ヲ割ツテ

$$\frac{dp}{dt} = -m(p - p_1), \text{ 但シ } m = \frac{a + \alpha}{\gamma - h}, p_1 = \frac{b + \beta}{a + \alpha} > 0$$

トナル。此ノ微分方程式ハ容易ニ解クコトガ出來テ

$$p - p_1 = Ce^{-mt},$$

C ハ積分常數トスル。 C ノ値ハ $t = 0$ ナルトキノ p ノ値ヲ p_0 トシテ

$$p_0 - p_1 = C$$

ヲ用ヒテ

$$p = p_1 - (p_1 - p_0)e^{-mt}$$

トスル。是即チ所要ノ價格 p ノ函數デアツテコノ p ニ對應スル需要量 y 又ハ供給量 u ハ

$$\begin{aligned} y = u &= \alpha p - \beta + \gamma \frac{dp}{dt} \\ &= \alpha [p_1 - (p_1 - p_0)e^{-mt}] - \beta + \gamma (p_1 - p_0) m e^{-mt} \\ &= (\alpha p_1 - \beta) - (\alpha - m\gamma)(p_1 - p_0)e^{-mt} \end{aligned}$$

トナル。

今先ヅ $p_1 - p_0 \neq 0$ ナリト假定シテ此ノ性質ヲ吟味センニ

$$m = \frac{a + \alpha}{\gamma - h}$$

ナルガ故ニ $a > 0, \alpha > 0$ 即チ分子ハ正ノ數デアル。若シ $\gamma - h > 0$ ナラバコノ解 p ハ $t = \infty$ ナルトキ p_1 ニ近ヅク。即チ p ハ p_0 ト p_1 ノ間ニ常ニ存在スル。最初 p ハ p_0 デアルカラ時ト共ニ次第ニ p_1 ニ近ヅキ遂ニ $t = \infty$ ナルトキ p_1 ニ到達スル。

若シ $\gamma - h < 0$ ナラバ $t = \infty$ トスレバ p_0 ガ p_1 ヨリ大ナルトキ p ハ ∞ ニナリ、 p_0 ガ p_1 ヨリ小ナルトキ p ハ $-\infty$ ニナル。詳言スレバ $p_0 > p_1$ ナルトキハ常ニ $p \geq p_0 > p_1$ ニシテ $t = \infty$ ナルトキ $p = \infty$ トナル。之ニ反シテ $p_0 < p_1$ ナルトキハ常ニ $p \leq p_0 < p_1$ ニシテ $t = \infty$ ナルトキ $p = -\infty$ トナル。何レニシテモ p ハ決シテ p_1 ニ近ヅクコトナシ。

斯クノ如キハ前章ニ於イテ得タ結果ガ近似的ニモ解ノ性質ヲ有セザルコトヲ示スモノニシテ本章ニ於ケル解ガ初メテ有效ナルコトヲ示スコトニナル。吾々ハカハル態度ヲトルコトハ出來ヌ。故ニ不等式

$$\gamma < h$$

が成立スルト考ヘナケレバナラス。

最後ニ p_0 ガ p_1 ニ等シキトキハ γ ト h ノ關係如何ニ拘ラズ常ニ $p=p_0$ ナル解ノミトナリ是即チ前章ニ於イテ得タル結果ニ外ナラス。

2. 需要供給ノ別ノ函数

前節デ得タ需要ノ法則ハ $\frac{dp}{dt}$ ノ値ガ大キクナイトキニハ、換言スレバ價格ノ變動ガ急激デナイトキニハ適用シ得ルデアラウガ若シ價格ノ變動ガ急激デ随ツテ $\frac{dp}{dt}$ ガ無限大ニモナルトイフ様ナ場合ニハ別ナ形ニシナケレバナラナイデアラウ。コノ目的ノタメニ $h\frac{dp}{dt}$ ガ簡單ナ積分可能ナ然カモ $\frac{dp}{dt}$ ガ無限大ニモナリ得ル形ニ變更シヨウ。ソコデ前同様ナ記號ヲ用フルコトニシテ

$$y = -ap + b + h \tan^{-1} \frac{dp}{dt}, \quad a, b > 0,$$

$$u = \alpha p - \beta + \gamma \tan^{-1} \frac{dp}{dt}, \quad \alpha, \beta > 0$$

トスル。

$$y = u$$

トナル様ナ p ヲ求メル。即チ

$$-ap + b + h \tan^{-1} \frac{dp}{dt} = \alpha p - \beta + \gamma \tan^{-1} \frac{dp}{dt}$$

ヲ移項シテ

$$(h - \gamma) \tan^{-1} \frac{dp}{dt} = (a + \alpha) \left(p - \frac{b + \beta}{a + \alpha} \right).$$

トナシ $\frac{b + \beta}{a + \alpha} = p_1, \frac{a + \alpha}{\gamma - h} = m$ トオクコト前節ト同様デアアル。シカルトキハ

$$\frac{dp}{dt} = -\tan m(p - p_1) = -\frac{\sin m(p - p_1)}{\cos m(p - p_1)}$$

又ハ變數分離ヲ行ヒ

$$\cot m(p - p_1) dp = -m dt$$

之ヲ積分シテ

$$\sin m(p - p_1) = C e^{-mt},$$

C ハ積分常數デアアルカラ、 $t=0$ ナルトキハ $p=p_0$ ナリトノ條件ヲ入レテ C ヲ消去スレバ

$$\sin m(p - p_1) = -\sin m(p_1 - p_0) \cdot e^{-mt}.$$

依ツテ

$$p = p_1 - \frac{1}{m} \sin^{-1} \{ \sin m(p_1 - p_0) \cdot e^{-mt} \}$$

若シ $m > 0$ ナラバ即チ $h < \gamma$ ナラバ $t = \infty$ ナルトキ $p = p_1$ 即チ前章デ得タ結果ニ到達スルガ若シ $m < 0$ ナラバ $t = \infty$ ノトキ p ノ値ハ不定デアアル。故ニ現實ノ社會ヲ見ヨウトスルニハ $m > 0$ ナル場合ヲ採ルコトニナル。

3. 積分テ表ハシタ需要法則

若シ或ル商品ノ需要量 y ガ現在ノ價格 p ニ關係スルノミナラズ更ニ過去ニ於ケル同ジ商品ノ價格ニモ關係ヲ有スルト假定シタナラバマタ別ナ法則ガ生ズル。今利力 (the force of interest) ヲ δ デ表ハセバ $t = \tau$ ノ時ニ價格 $p(\tau)$ ヲ $t = t$ ニ於ケル現價ニ換算スレバ

$$p(\tau) e^{-\delta(t-\tau)}$$

トナル。故ニ $t = -\infty$ カラ $t = t$ マデ總テノ價格ノ合計ハ

$$\int_{-\infty}^t e^{-\delta(t-\tau)} p(\tau) d\tau$$

デアル。故ニ需要量 y ヲシテ, $a, b > 0$ トシテ

$$y = -ap(t) + b + h \int_{-\infty}^t e^{-\delta(t-\tau)} p(\tau) d\tau \quad \text{但シ } a, b, h > 0$$

デ以テ表ハサレルト假定スル。

他方ニ於イテ供給量 u ハ最モ簡單ナル形式

$$u = \alpha p(t) - \beta \quad \text{但 } \alpha, \beta > 0$$

ナリトスレバ例ノ通り

$$y = u$$

ト置イテ

$$-ap(t) + b + h \int_{-\infty}^t e^{-\delta(t-\tau)} p(\tau) d\tau = \alpha p(t) - \beta$$

或ハ移項シテ

$$h \int_{-\infty}^t e^{-\delta(t-\tau)} p(\tau) d\tau = (a + \alpha)p(t) - (b + \beta)$$

兩邊ヲ $a + \alpha$ デ割リ且 $\frac{h}{a + \alpha} = m, \frac{b + \beta}{a + \alpha} = p_1$ トオケバ

$$m \int_{-\infty}^t e^{-\delta(t-\tau)} p(\tau) d\tau = p(t) - p_1$$

トナル。此ノ積分方程式ヲ解クニハ兩邊ヲ t ニ關シテ微分スル。然ルトキハ

$$m \left\{ p(t) - \delta \int_{-\infty}^t e^{-\delta(t-\tau)} p(\tau) d\tau \right\} = p'(t)$$

トナリ定積分ヲ消去スレバ

$$mp(t) - \delta(p(t) - p_1) = p'(t)$$

或ハ

$$(m - \delta)p(t) + \delta p_1 = p'(t)$$

トナル。

若シ $m - \delta = 0$ ナルトキハ

$$p'(t) = \delta p_1$$

トナルカラ積分シテ

$$p(t) = \delta p_1 t + C$$

茲ニ於イテ $t = 0$ トオイテ

$$p(0) = C$$

上ノ式カラ下ノ式ヲ引ク, 又ハ置キカヘテ

$$p(t) = p(0) + \delta p_1 t$$

此ノ式ニ於イテ δ, p_1 何レモ正ノ數デアルカラ $p(t)$ ハ $p(0)$ カラ t ト共ニ直線的ニ上昇スルノミデアル。

次ニ $m - \delta \neq 0$ ナルトキハ

$$(m - \delta)p(t) + \delta p_1 = p'(t)$$

ノ積分ハ C ヲ積分常數ト考ヘテ

$$(m - \delta)p(t) + \delta p_1 = C e^{(m - \delta)t}$$

デ表ハサレル。如何トナレバ最後ノ式ノ兩邊ヲ t ニ關シテ微分スレバ

$$(m - \delta)p'(t) = C(m - \delta)e^{(m - \delta)t}$$

$m - \delta \neq 0$ デアルカラ

$$p'(t) = C e^{(m - \delta)t}$$

トナリ與ヘラレタル微分方程式ヲ満足セシメタルコト明ラカデア
ル。

積分常數 C ハ $t = 0$ トオイテ

$$(m - \delta)p(0) + \delta p_1 = C$$

カラ C ガ得ラレル故ニ

$$(m-\delta)p(t) + \delta p_1 = [(m-\delta)p(0) + \delta p_1]e^{-(m-\delta)t},$$

$$p(t) = \frac{\delta}{\delta-m} p_1 + \left(\frac{\delta p_1}{\delta-m} - p(0) \right) e^{-(\delta-m)t}.$$

是即チ所要ノ價格函數ニシテ需要量 y 又ハ供給量 u ハ

$$y = u = \alpha p(t) - \beta = \frac{\delta\alpha}{\delta-m} p_1 - \beta + \left(\frac{\delta\alpha}{\delta-m} p_1 - \alpha p(0) \right) e^{-(\delta-m)t}$$

トナル。最後ニ $t = \infty$ ナラシメルトキ $p(t)$ ガ如何ニ變化スルカヲ見ルニ若シ $m - \delta > 0$ ナルトキハ $p(0), p_1$ 何レモ正ノ數デアアルカラ $t = \infty$ ナルトキ p モ亦正ノ無限大ニナル。若シ $m - \delta < 0$ ナルトキハ $t = \infty$ ナルトキ p ハ $\frac{\delta}{\delta-m} p_1$ ニ近ヅクガ p_1 ニ近ツカナイコトハ前二節ト結果トハ異ナル。勿論 $m \rightarrow 0$ 又ハ $h \rightarrow 0$ ナラバ $p(\infty)$ ハ明カニ p_1 ニ近ヅク。

第4章 課税ノ問題

1. 獨占ヘノ課税 (從量税)

生産費函數或ハ需要函數ノ係數ヲ變更セシメルガ如キ事情ガ起ツタトキ均衡點ガ如何ニ變更セラレルカヲ吟味シテ見ル。

先ヅ最初ニ生産費函數及ビ需要函數ハ從前通りニシテオイテ從量税率 ξ ガ一定ナル場合ヲ考ヘル。獨占者ノ利益ハ $pu - q(u)$ カラ $qu - \xi u - q(u)$ ニ變更スル。故ニ之ガ最大トナルニハ $u = -ap + b$ ヲ考慮ニ入レテ

$$-\left(A + \frac{1}{a}\right)u^2 + \left(\frac{b}{a} - B - \xi\right)u - C$$

ヲ最大ナラシメル u デアルカラ之ヲ $u_0 + \Delta_1 u$ トスレバ

$$u_0 + \Delta_1 u = \frac{b - a(B + \xi)}{2(1 + Aa)} = \frac{b - aB}{2(1 + Aa)} - \frac{a\xi}{2(1 + Aa)} = u_0 - \frac{a\xi}{2(1 + Aa)}$$

ニシテ之ニ對應スル p ノ値ヲ $p_0 + \Delta_1 p$ トスレバ

$$p_0 + \Delta_1 p = \frac{b + 2Aab + a(B + \xi)}{2a(1 + Aa)} = \frac{b + 2Aab + aB}{2a(1 + Aa)} + \frac{\xi}{2(1 + Aa)} = p_0 + \frac{\xi}{2(1 + Aa)}$$

デアル。即チ p ハ從前ヨリ $\Delta_1 p = \frac{\xi}{2(1 + Aa)}$ ダケ増加シ、随ツテ取引量ハ $\Delta_1 u = \frac{-a\xi}{2(1 + Aa)}$ ダケ減少スル。更ニ純利益 π ハコノトキ如何ニ變化スルカヲ見ルニ

$$\begin{aligned}\pi_0 + \Delta_1 \pi &= \frac{1}{2} \left(\frac{b}{a} - B - \xi \right) u - C = \frac{(b - aB - a\xi)^2}{4a(1 + \Lambda a)} - C \\ &= \frac{(b - aB)^2}{4a(1 + \Lambda a)} - C - \frac{(b - aB)\xi}{2(1 + \Lambda a)} + \frac{a\xi^2}{4(1 + \Lambda a)}\end{aligned}$$

故に π の変化 $\Delta_1 \pi$ は

$$\Delta_1 \pi = -\frac{(b - aB - a\xi)\xi}{2(1 + \Lambda a)} - \frac{a\xi\xi}{4(1 + \Lambda a)} = -(u + \Delta u)\xi + \frac{\xi}{2} \Delta_1 u$$

$\xi(u_0 + \Delta_1 u)$ は 税収入ノ總額デアルカラ之ヲ r トスレバ

$$\Delta_1 \pi + r = \frac{\xi \Delta_1 u}{2} = (1 + \Lambda a) \Delta_1 u \Delta_1 p = -a(1 + \Lambda a) [\Delta_1 p]^2$$

コノ値ハ負ノ値デアル。コノ事ハ即チ税収入ハ純利益ノ減少ヲ償フコトガ出来ナイ事ヲ示ス。

2. 獨占ヘノ課税 (從價税)

税率ハ前節ノ通り ξ ヲ一定トシ但シ從價税トスル。然ルトキハ獨占者ノ利益金 π は

$$\begin{aligned}pu(1 - \xi) - q(u) &= (1 - \xi)u \left(\frac{b}{a} - \frac{u}{a} \right) - Au^2 - Bu - C \\ &= -\left(A + \frac{1 - \xi}{a} \right) u^2 + \left[(1 - \xi) \frac{b}{a} - B \right] u - C\end{aligned}$$

デアルカラ之ヲ最大ナラシメル u ノ値ハ

$$u = \frac{(1 - \xi) \frac{b}{a} - B}{2 \left(A + \frac{1 - \xi}{a} \right)} = \frac{b - b\xi - Ba}{2(1 - \xi + \Lambda a)} = \frac{b - Ba}{2(1 + \Lambda a)} - \frac{a(B + \Lambda b)\xi}{2(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)}$$

$$= u_0 + \Delta_2 u$$

トオケバ

$$\Delta_2 u = -\frac{a(B + \Lambda b)\xi}{2(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)}$$

トナル。次之ニ應ズル p ノ値ハ

$$\begin{aligned}p &= \frac{b}{a} - \frac{u}{a} = \frac{b}{a} - \frac{(b - Ba)}{2a(1 + \Lambda a)} + \frac{(B + \Lambda b)\xi}{2(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)} \\ &= \frac{b + 2\Lambda ab + Ba}{2a(1 + \Lambda a)} + \frac{(B + \Lambda b)\xi}{2(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)} = p_0 + \Delta_2 p\end{aligned}$$

トオケバ

$$\Delta_2 p = \frac{(B + \Lambda b)\xi}{2(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)}$$

他方是等ノ p 及ビ u = 對スル π ノ値ハ

$$\pi_0 + \Delta_2 \pi = pu(1 - \xi) - Au^2 - Bu - C$$

$$= \frac{1}{2} \left[\frac{b}{a} (1 - \xi) - B \right] u - C$$

$$= \frac{1}{2} \left(\frac{b}{a} - B \right) u_0 - C + \frac{1}{2} \left\{ \left(\frac{b}{a} - B - \frac{b}{a} \xi \right) u_0 - \left(\frac{b}{a} - B \right) u \right\}$$

隨ツテ

$$\begin{aligned}\Delta_2 \pi &= \frac{1}{2} \left\{ \left(\frac{b}{a} - B \right) \Delta_2 u - \frac{b}{a} u_0 \xi \right\} \\ &= \frac{\xi}{2} \left\{ -\frac{(b - Ba)(B + \Lambda b)}{2(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)} - \frac{b(b - Ba - b\xi)}{2a(1 - \xi + \Lambda a)} \right\} \\ &= \frac{-(b - Ba)(b + 2\Lambda ab + Ba)\xi + b^2(1 + \Lambda a)\xi^2}{4a(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)} \\ &= \frac{-b^2(1 + \Lambda a)^2 \xi + a^2(B + \Lambda b)^2 \xi + b^2(1 + \Lambda a)\xi^2}{4a(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)} \\ &= \frac{-b^2(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)\xi + a^2(B + \Lambda b)^2 \xi}{4a(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)} \\ &= -\frac{b^2}{4a} \xi + \frac{a(B + \Lambda b)^2 \xi}{4(1 + \Lambda a)(1 - \xi + \Lambda a)}\end{aligned}$$

依ツテ

$$\Delta_2 \pi + pu\xi = \Delta_2 \pi + (p_0 + \Delta_2 p)(u_0 + \Delta_2 u)\xi$$

$$\begin{aligned}
&= -\frac{b^2}{4a}\xi + \frac{a(B+\Lambda b)^2\xi}{4(1+\Lambda a)(1-\xi+\Lambda a)} \\
&\quad + \frac{(b-b\xi+2\Lambda ab+Ba)(b-b\xi-Ba)\xi}{4a(1-\xi+\Lambda a)^2} \\
&= -\frac{b^2}{4a}\xi + \frac{a(B+\Lambda b)^2\xi}{4(1-\xi+\Lambda a)^2} - \frac{a(B+\Lambda b)^2\xi^2}{4(1+\Lambda a)(1-\xi+\Lambda a)^2} \\
&\quad + \frac{[b^2(1-\xi+\Lambda a)^2 - a^2(B+\Lambda a)^2]\xi}{4a(1-\xi+\Lambda a)^2} \\
&= -a(1+\Lambda a)\left[\frac{(B+\Lambda b)\xi}{2(1+\Lambda a)(1-\xi+\Lambda a)}\right]^2 = (1+\Lambda a)\Delta_2 u \Delta_2 p \\
&= -a(1+\Lambda a)[\Delta_2 p]^2
\end{aligned}$$

即チ

$$\Delta_2 \pi + pu\xi = -a(1+\Lambda a)[\Delta_2 p]^2$$

ニ於イテ $pu\xi$ ハ稅收入ヲ示シ $\Delta_2 \pi$ ハ純益金ノ増加ヲ示ス。即チ純益金ノ減少ハ稅收入ヨリ多額デアルコトヲ示スモノデアル。

最後ニ考ヘル課稅方法ハ純益金 π ニ對スルモノデアル。コノ場合ニハ稅率 ξ トスレバ $\pi(1-\xi)$ ヲ最大ナラシメル p 及ビ u ノ値ヲ求メルコトニナリソノ所要ノ値ハ即チ π 自身ヲ最大ナラシメル p 及ビ u ノ値ニ外ナラヌ。依ツテ純收益課稅法ヲ採用スルトキニハ獨占者ガ要求スル價格及ビ生産量ニ何等ノ變化ヲ生ジナイコトニナル。

3. 協同ヘノ課稅

n 人ノ生産者ガ協同シテ居ルトキノ各人ノ生産量 $u_{i,n}^{(a)}$ 及ビ價格 $p_n^{(a)}$ ハ夫々

$$u_{i,n}^{(a)} = \frac{b-Ba}{2(n+\Lambda a)} \quad \text{及ビ} \quad p_n^{(a)} = \frac{nb+2\Lambda ab+nBa}{2a(n+\Lambda a)}$$

デアツテ總生産量 u ハ

$$u = \sum u_{i,n}^{(a)} = \frac{n(b-Ba)}{2(n+\Lambda a)}$$

マタコノトキ總純利益金 π ハ

$$\pi = \sum \pi_i = \frac{1}{2} \left(\frac{b}{a} - B \right) \sum u_i - nC = \frac{n(b-Ba)^2}{4a(1+\Lambda a)} - nC$$

デアツタ。

今コノ協同ニ對シテ從量稅ヲ課スル場合ニ各生産者ノ生産量及ビソノ價格ガ如何ニ變化スルカラ吟味センニ各人ノ純益金ハ

$$pu_i - \xi u_i - q(u_i),$$

トナル。從ツテソノ總計ハ

$$\begin{aligned}
&p \sum u_i - \xi \sum u_i - \sum q(u_i) \\
&= pu - A \sum u_i^2 - (B+\xi) \sum u_i - nC.
\end{aligned}$$

コレヲ最大ナラシメル u ヲ求メ、次イデソノ値ニ應ズル p 及ビ π ヲ求メナケレバナラヌ。シカルニソノ結果ハ明ラカニ無稅ノトキノ u, p, π ノ式ニ於イテ B ノ代リニ $B+\xi$ ヲ置キ換ヘレバヨイ。今夫等ノ値ヲ夫々 $u_{i,n}^{(a)} + \Delta_1 u_{i,n}^{(a)}$, $p_n^{(a)} + \Delta_1 p_n^{(a)}$ 及ビ $\pi + \Delta_1 \pi$ デ表ハセバ

$$u_{i,n}^{(a)} + \Delta_1 u_{i,n}^{(a)} = \frac{b-(B+\xi)a}{2(n+\Lambda a)} = \frac{b-Ba}{2(n+\Lambda a)} - \frac{a\xi}{2(n+\Lambda a)},$$

$$\begin{aligned}
p_n^{(a)} + \Delta_1 p_n^{(a)} &= \frac{nb+2\Lambda ab+n(B+\xi)a}{2a(n+\Lambda a)} \\
&= \frac{nb+2\Lambda ab+nBa}{2a(n+\Lambda a)} + \frac{n\xi}{2(n+\Lambda a)},
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\pi + \Delta_1 \pi &= \frac{n[b-(B+\xi)a]^2}{4a(1+\Lambda a)} - nC \\
&= \frac{n(b-Ba)^2 - 2(b-Ba)a\xi + na^2\xi^2}{4a(1+\Lambda a)} - nC
\end{aligned}$$

$$= \frac{n(b-Ba)^2}{4a(1+Aa)} - nC - \frac{n(b-Ba)}{2(1+Aa)}\xi + \frac{n\xi^2}{4(1+Aa)}$$

依ツテ之等ノ値カラ $\Delta_1 u_{s,n}^{(a)}$, $\Delta_1 p_n^{(a)}$ 及ビ $\Delta_1 \pi + n(u_{s,n}^{(a)} + \Delta_1 u_{s,n}^{(a)})\xi$ ヲ
出セバ

$$\Delta_1 u_{s,n}^{(a)} = -\frac{a\xi}{2(n+Aa)} \quad \text{及ビ} \quad \Delta_1 p_n^{(a)} = \frac{n\xi}{2(n+Aa)}$$

トナリ, マタ

$$\begin{aligned} \Delta_1 \pi + n(u_{s,n}^{(a)} + \Delta_1 u_{s,n}^{(a)})\xi &= -\frac{n(b-Ba)\xi}{2(1+Aa)} \\ &+ \frac{na\xi^2}{4(1+Aa)} + \frac{n(b-Ba-a\xi)\xi}{2(n+Aa)} \\ &= -\frac{na\xi^2}{4(1+Aa)} \end{aligned}$$

トナルカラ

$$\begin{aligned} \Delta_1 \pi + n(u_{s,n}^{(a)} + \Delta_1 u_{s,n}^{(a)})\xi &= (1+Aa)\Delta_1 u_{s,n}^{(a)}\Delta_1 p_n^{(a)} \\ &= -\frac{a(1+Aa)}{n}[\Delta_1 p_n^{(a)}]^2 \end{aligned}$$

4. 協同への従價稅

次ニコノ協同ニ對シテ從價稅ヲ課スルトキニハ總純利益金ハ

$$pu(1-\xi) - \sum q(u_s) = (1-\xi)\left(\frac{b}{a} - \frac{1}{a}\sum u_s\right)\sum u_s - A\xi^2 - B\xi\sum u_s - nC$$

トナル. 故ニ之ヲ最大ナラシメル u_s ノ値ハ明ラカニ

$$-2Au_s - 2\frac{1-\xi}{a}\sum u_s + \frac{b}{a}(1-\xi) - B = 0, \quad s=1, 2, 3, \dots, n$$

コノ式カラ u_s ヲ求メ得タモノヲ $u_{s,n}^{(a)} + \Delta_2 u_{s,n}^{(a)}$ ト書ケバ

$$\begin{aligned} u_{s,n}^{(a)} + \Delta_2 u_{s,n}^{(a)} &= \frac{b(1-\xi) - Ba}{2\{n(1-\xi) + Aa\}} \\ &= \frac{b-Ba}{2(n+Aa)} - \frac{a(nB+Ab)\xi}{2(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \end{aligned}$$

トナリ. 之ニ應ズル價格ヲ $p_n^{(a)} + \Delta_2 p_n^{(a)}$ ト書ケバ

$$\begin{aligned} p_n^{(a)} + \Delta_2 p_n^{(a)} &= \frac{b}{a} - \frac{u}{a} = \frac{b}{a} - \frac{n(b-Ba)}{2a(n+Aa)} + \frac{n(nB+Ab)\xi}{2(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \\ &= \frac{nb+2Aab+nBa}{2a(n+Aa)} + \frac{n(nB+Ab)\xi}{2(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \end{aligned}$$

トナル. 故ニ

$$\Delta_2 u_{s,n}^{(a)} = -\frac{a(nB+Ab)\xi}{2(n+Aa)(n-n\xi+Aa)}, \quad \Delta_2 p_n^{(a)} = \frac{n(nB+Ab)\xi}{2(n+Aa)(n-n\xi+Aa)}$$

トナル. 更ニ總純益金ノ最大値 $\pi + \Delta_2 \pi$ ヲ求ムレバ

$$\begin{aligned} \pi + \Delta_2 \pi &= \frac{1}{2}\left(\frac{b}{a} - \frac{b}{a}\xi - B\right)\sum u_s - nC \\ &= \frac{1}{2}\left(\frac{b}{a} - \frac{b}{a}\xi - B\right) \times \frac{n(b-b\xi - Ba)}{2(n-n\xi+Aa)} - nC \\ &= \frac{n(b-b\xi - Ba)^2}{4a(n-n\xi+Aa)} - nC \\ \Delta_2 \pi &= \frac{n(b-b\xi - Ba)^2}{4a(n-n\xi+Aa)} - \frac{n(b-Ba)^2}{4a(n+Aa)} \\ &= \frac{n(2b-b\xi-2Ba)(-b)\xi(n+Aa) + n^2(b-Ba)^2\xi}{4a(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \\ &= \frac{-(nb+Ab)(2nb-nb\xi-2nBa)\xi + \{(nb-nBa)^2 - (nBa+Ab)^2\}\xi}{4a(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \\ &+ \frac{a(nB+Ab)^2\xi}{4(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \\ &= \frac{-(nb+Ab)(2nb-nb\xi-2nBa)\xi + (nb+Ab)(nb-2nBa-Aab)\xi}{4a(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \\ &+ \frac{a(nB+Ab)^2\xi}{4(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \\ &= \frac{-(nb+Ab)(nb-nb\xi+Aab)\xi}{4a(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} + \frac{a(nB+Ab)^2\xi}{4(n+Aa)(n-n\xi+Aa)} \end{aligned}$$

$$= \frac{-b^2\xi}{4a} + \frac{a(nB+Ab)^2\xi}{4(n+Aa)(n-n\xi+Aa)}$$

他方=於イテ

$$\begin{aligned} & n(p_n^{(a)} + \Delta_2 p_n^{(a)})(u_{s,n}^{(a)} + \Delta_2 u_{s,n}^{(a)}) \\ &= \frac{n(b-b\xi-Ba)}{2(n-n\xi+Aa)} \cdot \frac{nb-nb\xi+2Aab+nBa}{2a(n-n\xi+Aa)} \\ &= \frac{(nb-nb\xi+2Aab)^2 - (Aab+nBa)^2}{4a(n-n\xi+Aa)^2} \\ &= \frac{b^2(n-n\xi+Aa)^2 - a^2(nB+Ab)^2}{4a(n-n\xi+Aa)^2} \\ &= \frac{b^2}{4a} - \frac{a(nB+Ab)^2}{4(n-n\xi+Aa)^2} \end{aligned}$$

デアアルカラ

$$\begin{aligned} & \Delta_2 \pi + n(p_n^{(a)} + \Delta_2 p_n^{(a)})(u_{s,n}^{(a)} + \Delta_2 u_{s,n}^{(a)})\xi \\ &= \frac{a(nB+Ab)^2\xi}{4(n+Ab)(n-n\xi+Aa)} - \frac{a(nB+Ab)^2\xi}{4(n-n\xi+Aa)^2} \\ &= -\frac{na(nB+Ab)^2\xi^2}{4(n+Ab)(n-n\xi+Aa)^2} \\ &= (n+Ab)\Delta_2 u_{s,n}^{(a)}\Delta_2 p_n^{(a)} \end{aligned}$$

ガ成立スル。

5. 競争への従量課税

n 人ノ生産者ガ自由=競争シ各自ガ自己ノ純益金ヲ最大ナラシメ

ントスルトキハ價格及ビ生産量ハ夫々

$$p_n^{(a)} = \frac{b+2Aab+nBa}{a(n+1+2Aa)}, \quad u_{s,n}^{(a)} = \frac{b-Ba}{n+1+2Aa}$$

デアツタ。

若シ従量課税ヲスルトキハ B ノ代リニ $B+\xi$ ト置イタモノガ即チ所要ノ値ニシテ

$$\begin{aligned} p_n^{(a)} + \Delta_1 p_n^{(a)} &= \frac{b+2Aab+n(B+\xi)a}{a(n+1+2Aa)} \\ &= \frac{b+2Aab+nBa}{a(n+1+2Aa)} + \frac{n\xi}{n+1+2Aa} \\ u_{s,n}^{(a)} + \Delta_1 u_{s,n}^{(a)} &= \frac{b-(B+\xi)a}{n+1+2Aa} = \frac{b-Ba}{n+1+2Aa} - \frac{a\xi}{n+1+2Aa} \end{aligned}$$

是等ノ式カラ直チニ

$$\Delta_1 p_n^{(a)} = \frac{n\xi}{n+1+2Aa} > 0 \quad \text{及ビ} \quad \Delta_1 u_{s,n}^{(a)} = -\frac{a\xi}{n+1+2Aa} < 0$$

ナルコトヲ知ル。

次ニ $\pi_s^{(a)}$ ハ B ヲ $B+\xi$ デオキカヘレバ

$$\pi_s^{(a)} + \Delta_1 \pi_s^{(a)} = \frac{(1+Aa)(b-Ba-a\xi)^2}{a(n+1+2Aa)^2} - C$$

カラ直チニ

$$\begin{aligned} \Delta_1 \pi_s^{(a)} &= \frac{(1+Aa)(b-Ba-a\xi)^2}{a(n+1+2Aa)^2} - \frac{(1+Aa)(b-Ba)^2}{a(n+1+2Aa)^2} \\ &= \frac{-(1+Aa)(2b-2Ba-a\xi)\xi}{(n+1+2Aa)^2} \end{aligned}$$

ヲ得、從ツテ

$$\begin{aligned} & \Delta_1 \pi_s^{(a)} + (u_{s,n}^{(a)} + \Delta_1 u_{s,n}^{(a)})\xi \\ &= \frac{-(1+Aa)(2b-2Ba-a\xi)\xi}{(n+1+2Aa)^2} + \frac{(b-Ba-a\xi)\xi}{(n+1+2Aa)} \\ &= \frac{-2(1+Aa)(b-Ba-a\xi)\xi}{(n+1+2Aa)^2} + \frac{(b-Ba-a\xi)\xi}{(n+1+2Aa)} - \frac{a(1+Aa)\xi^2}{(n+1+2Aa)^2} \\ &= \frac{(n-1)(b-Ba-a\xi)\xi}{(n+1+2Aa)^2} - \frac{a(1+Aa)\xi^2}{(n+1+2Aa)^2} \end{aligned}$$

$$= \frac{n-1}{n} (u_{s,n}^{(0)} + \Delta_1 u_{s,n}^{(0)}) \Delta_1 p_n^{(0)} + \frac{1+Aa}{n} \Delta_1 u_{s,n}^{(0)} \Delta_1 p_n^{(0)}$$

トナル。依ツテ純益金ノ減少ハ稅收入ニヨツテ償ハレル。ソノ額ハ凡ソ代金ノ増加額ノ $\frac{n-1}{n}$ 等シイコトガ分ル。

6. 競争ヘノ從價課稅

競争ヘ從價課稅ヲ行フトキ各生産者ノ生産量及ビ價格ノ變化、隨ツテ生ズル純益金ノ變化ハ次ノ様ニナル。

第 8 生産者ノ純益金 π_s ハ一定稅率ヲ ξ トシテ

$$\pi_s = pu_s(1-\xi) - Au_s^2 - Bu_s - C, \quad \Sigma u_s = -ap + b$$

トナルコト明ラカデア。 π_s ノ最大ナラシメル u_s ヲ求メルベキデア。ルガ ξ ガ一定ナルコトヲ利用シテ

$$\frac{\pi_s}{1-\xi} = pu_s - \frac{A}{1-\xi} u_s^2 - \frac{B}{1-\xi} u_s - \frac{C}{1-\xi}$$

トスレバ π_s ノ最大ハ即チ $\frac{\pi_s}{1-\xi}$ ノ最大デア。ルカラコレニ應ズル生産量及ビ價格ハ既ニ知ル通リデア。ルカラ

$$u_{s,n}^{(0)} + \Delta_2 u_{s,n}^{(0)} = \frac{b - \frac{Ba}{1-\xi}}{n+1 + \frac{2Aa}{1-\xi}} = \frac{b - Ba - b\xi}{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi}$$

$$p_n^{(0)} + \Delta_2 p_n^{(0)} = \frac{b + \frac{2Aab}{1-\xi} + \frac{nBa}{1-\xi}}{a(n+1 + \frac{2Aa}{1-\xi})} = \frac{b + 2Aab + nBa - b\xi}{a\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}}$$

依ツテ直チニ

$$\Delta_2 u_{s,n}^{(0)} = \frac{b - Ba - b\xi}{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi} - \frac{b - Ba}{n+1 + 2Aa}$$

$$= \frac{-a(2Ab + nB + B)\xi}{(n+1 + 2Aa)\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}}$$

$$\Delta_2 p_n^{(0)} = \frac{b + 2Aab + nBa - b\xi}{a\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}} - \frac{b + 2Aab + nBa}{a(n+1 + 2Aa)}$$

$$= \frac{n(2Ab + nB + B)\xi}{(n+1 + 2Aa)\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}}$$

ヲ得。次ニ $\frac{\pi_s}{1-\xi}$ ノ最大値ハ

$$\frac{\pi_s + \Delta_2 \pi_s}{1-\xi} = \frac{\left(1 + \frac{Aa}{1-\xi}\right) \left(b - \frac{Ba}{1-\xi}\right)^2}{a\left(n+1 + \frac{2Aa}{1-\xi}\right)^2} - \frac{C}{1-\xi}$$

$$\pi_s + \Delta_2 \pi_s = \frac{(1 + Aa - \xi)(b - Ba - b\xi)^2}{a\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}^2} - C$$

トナリ、從ツテ

$$\Delta_2 \pi_s = \frac{(1 + Aa - \xi)(b - Ba - b\xi)^2}{a\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}^2} - \frac{(1 + Aa)(b - Ba)^2}{a(n+1 + 2Aa)^2}$$

$$= \frac{1 + Aa}{a} \left[\frac{(b - Ba - b\xi)^2}{\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}^2} - \frac{(b - Ba)^2}{(n+1 + 2Aa)^2} \right]$$

$$- \frac{(b - Ba - b\xi)^2 \xi}{a\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}^2}$$

$$= \frac{1 + Aa}{a} \left[\frac{-a(2Ab + nB + B)\xi}{(n+1 + 2Aa)\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}} \right] \times$$

$$\left[\frac{(b - Ba - b\xi)(n+1 + 2Aa) + (b - Ba)\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}}{(n+1 + 2Aa)\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}} \right]$$

$$- \frac{(b - Ba - b\xi)(b + 2Aab + nBa - b\xi)\xi}{a\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}^2}$$

$$+ \frac{(b - Ba - b\xi)(2Ab + nB + B)\xi}{\{n+1 + 2Aa - (n+1)\xi\}^2} \cdot \frac{n-1 + 2(1 + Aa)}{n+1 + 2Aa}$$

$$\begin{aligned}
&= -\frac{a(1+Aa)(2Ab+nB+B)^2\xi^2}{(n+1+2Aa)^2\{n+1+2Aa-(n+1)\xi\}^2} \\
&\quad - \frac{(b-Ba-b\xi)(b+2Aab+nBa-b\xi)\xi}{a\{n+1+2Aa-(n+1)\xi\}^2} \\
&\quad + \frac{(n-1)(b-Ba-b\xi)(2Ab+nB+B)\xi}{(n+1+2Aa)\{n+1+2Aa-(n+1)\xi\}^2} \\
&= \frac{(1+Aa)}{n} \Delta_2 u_{i,n}^{(c)} \Delta_2 p_n^{(c)} - \{n_{i,n}^{(c)} + \Delta_2 u_{i,n}^{(c)}\} \{p_n^{(c)} + \Delta_2 p_n^{(c)}\} \xi \\
&\quad + \frac{n-1}{n} \{u_{i,n}^{(c)} + \Delta_2 u_{i,n}^{(c)}\} \Delta_2 p_n^{(c)}
\end{aligned}$$

或ハ移項シテ最後ノ式

$$\begin{aligned}
&\Delta_2 \pi_i + \{u_{i,n}^{(c)} + \Delta_2 u_{i,n}^{(c)}\} \{p_n^{(c)} + \Delta_2 p_n^{(c)}\} \xi \\
&= \frac{n-1}{n} \{u_{i,n}^{(c)} + \Delta_2 u_{i,n}^{(c)}\} \Delta_2 p_n^{(c)} + \frac{1+Aa}{n} \Delta_2 u_{i,n}^{(c)} \Delta_2 p_n^{(c)}
\end{aligned}$$

ニ到達スル。而シテ結論ハ從量課税ノトキト少シモ變ラナイノデア
ルカラ省略スル。

昭和13年8月18日印刷
昭和13年8月24日發行

新編教育數學講座
第4回配本

預約頒價
¥ 2.00

編輯者 南條初五郎
發行者 東京市神田區駿河台3ノ9

印刷者 石村勳
東京市牛込區市ヶ谷加賀町1ノ12

印刷所 大日本印刷株式會社
東京市牛込區市ヶ谷加賀町1ノ12

發行所 合資 共立社
東京市神田區駿河台3ノ9
振替東京46074電話神田1518・2624

特246
603



新輯教育數學講座 第4回配本

特246
603